

公開版

仙台市立病院 事業継続計画

第1版

(平成30年9月1日策定)

※ 本公開版は、当院事業継続計画から、当院の機密に関わる情報等を除外したものであり、院内版とは一部内容が異なりますのでご了承ください。

○策定・改訂履歴

版数	策定/改訂年月日	策定/改訂内容
初版	平成 30 年 9 月 1 日	新規策定

仙台市立病院事業継続計画 目次

【目次】

第1章 事業継続計画の基本的な考え方	1
1 事業継続計画（BCP）策定の目的と方針.....	1
(1) 策定の目的と基本方針	1
(2) 平常時のBCP管理体制	1
(3) 災害時における体制	2
2 対象とする災害と被害想定	8
(1) 対象とする災害	8
(2) 地域の被害想定	8
(3) 病院の施設等の被害想定.....	9
3 想定される医療需要	11
(1) 医療需要の推移の想定	11
(2) 来院する重傷者数の想定.....	12
第2章 行動計画.....	14
1 非常時優先業務の目標開始時間等	14
2 各部署の非常時優先業務の目標開始時間等.....	14
3 必要資源の現状と事業継続上の課題.....	14
4 診療中止及び避難実施の決定	14
第3章 今後の取組	15
1 事業継続マネジメント（BCM）の推進	15
2 教育・訓練等	15

【資料編】

- 別紙1 仙台市立病院非常時優先業務総括表（全体）
- 別紙2 仙台市立病院非常時優先業務総括表（班別）
- 別紙3 部署別非常時優先業務総括表
- 別紙4 非常時優先業務ごとの必要資源

第1章 事業継続計画の基本的な考え方

1 事業継続計画（BCP）策定の目的と方針

（1）策定の目的と基本方針

① 目的

仙台市立病院（以下、「当院」という。）は、地域の中核病院として、高度医療や政策的医療の提供を通じて市民の健康と生命を守ることを理念としている。また、災害等の発生時においても、地域災害拠点病院として傷病者受入れの拠点となり、著しく増大する医療需要に対応することが求められている。

一方、当院が立地する仙台市は、宮城県沖地震や東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）のような、マグニチュード7を超える大規模地震が今後30年以内に50%以上の確率で発生することが予想されている。また、市内の広範囲において、台風や集中豪雨により、冠水等の大規模風水害や土砂災害が発生する危険性も指摘されている。

当院については、免震構造かつ内陸に立地していること、また、河川には近いもののやや標高が高いことから、直接的な地震・津波被害や、大きな風水害被害を受ける可能性は低いものと考えられるが、ひとたび被害を受ければ、病院の運営に関して重大な支障が発生することが想定され、また、災害発生に伴う大量の傷病者の受け入れが当院の業務継続上の大きな負担となることは想像に難くない。

本事業継続計画（以下、「本計画」という。）は、上記の点を踏まえ、災害による被害状況の想定や当院の医療資源の分析を通じて、災害等発生時の当院における対応について検討すると共に、それに基づいた訓練等を行うことで、東日本大震災と同規模の大規模災害等の発生時においても、当院が災害拠点病院としての役割を果たすことができるようにすることを目的に策定するものである。

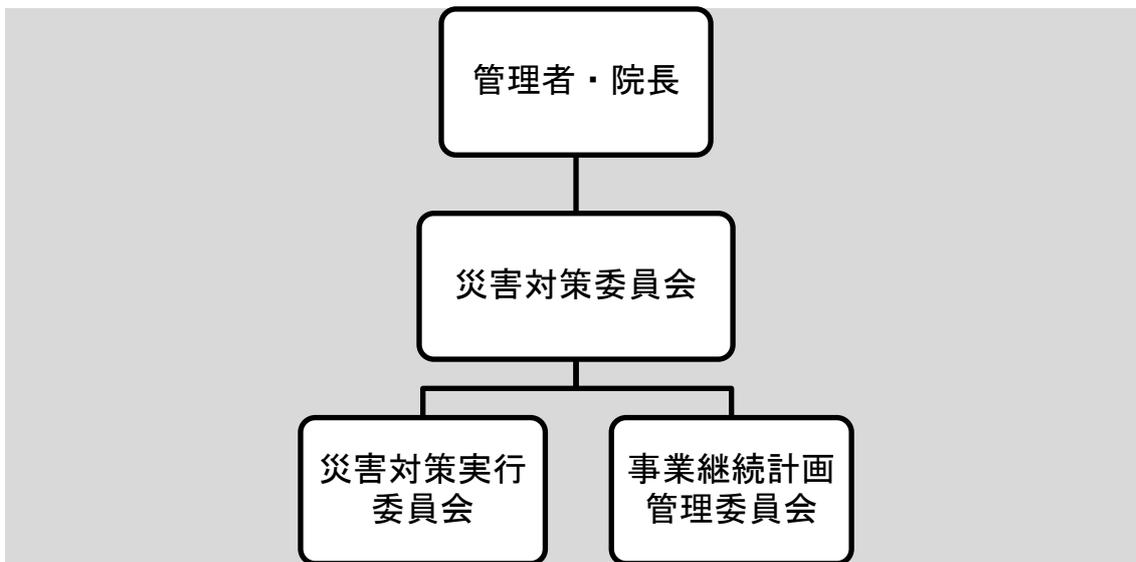
② 基本方針

1. 人命救助を最大限優先すること
2. 寸断なく医療提供を行うこと
3. 災害拠点病院として地域の医療提供の核となること

（2）平常時のBCP管理体制

平常時から災害に備えるため、図1のように、病院事業管理者及び院長の下に、災害対策委員会及びその下部組織としての災害対策実行委員会を設置し、院内の災害対策を推進する。また、災害対策委員会の下部組織として、新たに事業継続計画管理委員会（以下、「管理委員会」という。）を設置し、本計画の検討や見直し、進捗管理等を行う。

図1 平常時の体制（危機管理体制、BCP 管理体制）



(3) 災害時における体制

① 災害対策本部の設置

以下の基準に基づき、病院事業管理者は、原則として災害対策本部を設置する。

【市立病院災害対策本部 設置基準】

- 市内で5弱以上の震度を観測する地震が発生した場合
- 当院が直接被害を受ける又はそのおそれがある災害等が発生した場合
- 多数傷病者発生事案[※]が発生した場合

※ 当該災害・事故により20名程度以上の負傷者が発生し、かつ当院に重症・中等症患者が5名以上搬送されることが想定される場合

災害対策本部の構成員は、以下のとおりである。

【本部構成員一覧】

役職名	担当職員
本部長	病院事業管理者
筆頭副本部長	院長
次席副本部長	理事（不在の場合は次長）
本部員	次長、副院長、経営管理部長、医療安全管理担当部長、総合サポートセンター長・副センター長、診療部長、医療技術部長、看護部長、救命救急センター長、総務課長、経営企画課長、医事課長、財産管理課長

なお、病院事業管理者等の災害対策本部構成員の不在時には、宿日直担当常勤医師が本部長となる。

② 災害対策本部の組織

災害対策本部が設置された場合は、図2（巻末）のような体制を組織し対応にあたる。

【災害対策本部体制】

- 災害対策本部の下に、既存部門を基にした18の班（通常部門）を設ける。
- 多数傷病者発生事案の発生時には、別途、トリアージ診療部門を設置する。
※設置時には、一部の通常部門の班を廃止・縮小して人員を確保する。
- 災害対策本部員が、各班業務全体の統括を行う。また、各班には、現場における統括を行うリーダーを置く。

【各班の構成部署及び業務内容】

i .通常部門（常設）

部門名	班名	統括を行う 本部員	構成部署	業務内容
診療	救急診療班	救命救急センター長	診療部	救命救急センターにおける診療の実施
	外来診療班	副院長		一般外来における診療の実施
	病棟診療班			病棟における診療の実施
	手術班			手術の実施
看護	救急看護班	看護部長	看護部（救急外来）	救命救急センターにおける看護の実施
	外来看護班		看護部（外来）	一般外来における看護の実施 手術の補助等
	病棟看護班		看護部（病棟）	病棟における看護の実施
医療技術	薬剤班	医療技術部長	薬剤科	調剤及び製剤の実施、医薬品の管理
	放射線技術班		放射線技術科	放射線検査の実施
	臨床検査班		臨床検査科	臨床検査の実施
	栄養管理班		栄養管理科	患者食の管理
	臨床工学班		臨床工学科	医療機器の保守管理・復旧
事務	本部運営班	総務課長	総務課 企画財務係	災害対策本部の設置・運営、渉外関係業務及び人員配置の実施
	物資・物流班	経営企画課長	契約係 医療管財係	診療材料や消耗品等の確保・供給、業者との調整（医療機器復旧関係）
	施設管理班	財産管理課長	施設係	施設設備の保守管理・復旧、業者との調整（施設設備復旧関係）
	医事会計・情報システム班	医事課長	医事課	医事会計業務の実施、各種院内システムの保守管理・復旧、業者との調整（システム復旧関係）
その他	転退院調整・患者対応班	総合サポートセンター長	総合サポートセンター	患者の転退院調整（診療・看護部門と連携）、患者及び家族への心理的サポート等の実施
	安全管理・院内感染対策班	医療安全管理担当部長	医療安全管理課	院内における医療安全の確保及び感染対策の実施

ii. トリアージ診療部門（多数傷病者発生事案の発生時に設置）

部門名	班名 (最低必要人数)	統括を行う 本部員	構成部署	業務内容
トリアージ 診療	トリアージポスト (Dr3名, Ns6名)	救命救急センター長 看護部長	診療部 看護部	受け入れ患者のトリアージの実施
	赤エリア (Dr4名, Ns8名)			重症患者の診療・看護の実施
	黄エリア (Dr4名, Ns8名)			中等症患者の診療・看護の実施
	緑エリア (Dr2名, Ns4名)			軽症患者の診療・看護の実施
	黒エリア (Dr1名, Ns2名)			死亡者等の受け入れの実施
	連絡調整班 (5名)		総務課 経営企画課 医事課	各エリア及び災害対策本部との間で、 患者搬送状況や応援要請等について、 連絡・調整を実施
	搬送誘導班 (12名)		総合サポートセン ター リハビリテーショ ン科	各エリアへの患者の搬送、患者搬送時 の動線確保、来院者等の誘導
	受付班 (5名)	医事課長	医事課	各エリアに搬送されてきた患者の受付 業務及び患者情報の集計を実施

※ トリアージ診療部門が設置された場合の人員配置については、災害対策本部で決定する。

※ トリアージ診療部門が設置された場合、一部の通常部門の班は廃止・縮小されるため、統括を行う本部員は、トリアージ診療部門の統括を行う。

③ 災害対策本部の活動

・本部員会議の運営

院内での情報共有や災害対策本部としての判断・決定を行うため、適宜、本部員会議を開催する。

本部員会議には、本部長、副本部長及び各本部員が参加する。

本部員会議の進行は、本部長が行う。また、本部運営班は、会議の議事録を作成する。

・本部員会議の所管事務

本部員会議の主な所管事務は以下のとおりとする。なお、急を要する場合は、本部員会議の開催を省略し、本部長もしくは副本部長が判断を行う。

【本部員会議の所管事務】（※詳細は災害対策マニュアルを参照）

- 非常配備体制への移行・変更・解除の検討
- 診療継続・中止の検討
- 避難実施の検討
- トリアージ診療部門設置・廃止の検討
- 各関係機関等との調整事項の検討
（DMAT など災害医療支援チームの受入や要員・物資の支援要請、患者の外部転送・受入 等）
- 災害対策本部の解散の検討

④ 災害対策本部の設置場所

災害対策本部は、本院 3 階第 1 会議室に設置する。

【災害対策本部の設置場所】

3 階第 1 会議室

図省略

なお、3 階第 1 会議室が使用不可能な場合には、3 階第 2～第 4 会議室もしくは 3 階事務室を本部として使用する。

⑤ 職員参集ルール

夜間休日等の時間外において、職員は、下記の基準に基づき当院への参集を開始する。

【市立病院職員参集基準】

1号配備 職員	①市内のいずれかの地点において震度5弱の地震が発生したとき※ ②宮城県に津波警報が発表されたとき※ ③市内に気象特別警報(暴風特別警報、暴風雪特別警報、大雨特別警報及び大雪特別警報)、高潮特別警報または波浪特別警報が発表されたとき※ ④市内において大雨、洪水、暴風、大雪等により災害が発生し、拡大が予想されるとき ⑤市内で大規模な火災、爆発その他重大な災害が発生したとき ⑥その他管理者が必要と認めたとき
2号配備 職員	①市内のいずれかの地点において震度5強の地震が発生したとき※ ②宮城県に大津波警報が発表されたとき※ ③市内において大雨、洪水、暴風、大雪等により、災害が広範囲で発生し、さらに拡大するおそれがあるとき ④その他管理者が必要と認めたとき
3号配備 職員	①市内のいずれかの地点において震度6弱以上の地震が発生したとき※ ②市内全域で大規模な災害が発生、または全域に拡大が 予想されるとき ③その他管理者が必要と認めたとき

※ 自主的に参集する場合。なお、それ以外の場合については緊急連絡網により参集を行う。

⑥ 職員および職員家族の安否確認と参集可否の連絡

各所属長は、災害発生後ただちに、緊急連絡網等を通じ、職員の安否確認を行う。また、各職員は、自らの被害状況を所属長へ公衆電話や携帯電話の災害用伝言板サービス、メール等あらゆる手段を利用して報告する。報告内容は、本人及び家族の身体的な被害状況及び家屋等の被害状況等とする。

※ 職員家族の安否確認

勤務時間内に発災した場合、職員は職場において非常時優先業務に従事する。その場合でも安心して職務に専念できるようにするため、普段から家族内で非常時の連絡方法（災害伝言ダイヤル、災害用伝言板等）を確認しておく。

⑦ EMIS (Emergency Medical Information System : 広域災害救急医療情報システム) への入力

大規模災害が発生した場合、当院は、院内の被害状況等に関する情報を迅速に収集し、EMIS に入力する（目標：3時間以内に第一報を入力する。）。

【当院の EMIS 入力担当者】

EMIS 入力担当者①	DMAT 隊員
EMIS 入力担当者②	本部運営班員

- ・ 参集している DMAT 隊員（主に業務調整員）がいる場合は、入力を依頼する。また、DMAT 隊員が参集していない場合には、入力方法を把握している本部運営班員（災害担当職員等）が入力を行う。
- ・ EMIS が機能していない場合、FAX や衛星携帯電話等を活用して、宮城県保健医療調整本部に被害状況等の情報を報告する。その間、当院は、一時的に重症傷病者の搬送先として傷病者を受け入れる。

2 対象とする災害と被害想定

(1) 対象とする災害

本計画の前提とする災害は、平成 14 年 11 月に仙台市が発表した『仙台市地震被害想定調査報告書』*（以下、「地震被害想定」という。）のうち、仙台市内に甚大な人的、物的な被害をもたらす「長町一利府断層地震 マグニチュード 7.5（震度 6 強）」とする。ただし、当該災害の発生により、近隣市町村にも被害が及ぶことが想定されることから、その影響を受ける可能性も想定される。

※東日本大震災後、仙台市及び宮城県においては、新たに域内の地震被害想定を実施していないため、直近で想定が行われた当該報告を用いることとする。

①発災日時・時刻等の想定

被害想定は『地震被害想定』において、重傷者が最も多く発生すると想定されている「冬の平日、夕方 18 時、風速 6.0m/s」を用いる。

②人的被害の想定（仙台市内）

被害項目		被害想定数（単位：人）
人的被害	死者数	1,032
	負傷者数	13,254
	重傷者数*	1,290

（出典）『仙台市地震被害想定調査報告書』

※「重傷者」とは、「災害のため負傷し、医師の治療を受けまたは受ける必要のあるもののうち、1 月以上の治療を要する見込みの者」を言う。（出典）「災害の被害認定基準について」（平成 13 年 6 月 28 日内閣府政策統括官（防災担当）通知）

(2) 地域の被害想定

前述（1）にて前提とした災害による仙台市内のライフライン等の主な被害状況は、以下の通りである。

ライフラインの種類	被害状況	被害率 （供給停止率）	復旧までの期間
電力	71,507 戸	23%	2 日

上水	2,604 箇所 (0.83 箇所/km)	17.6% (供給支障率)	2 週間
下水	10,310 箇所 (3.47 箇所/km)	3.47 箇所/km	2.9 ヶ月
都市ガス	3,835 箇所(低圧導管) /5,458 箇所(供給管)	100%	2.5 日
固定電話・携 帯電話	165,584 回線	29.7%	10 日

(出典)『仙台市地震被害想定調査報告書』

(3) 病院の施設等の被害想定

① 建物・施設の被害想定

当院は、免震構造(本院)及び耐震構造(厚生棟)が施されていることから、想定する震度6強の地震発生時においても、建物自体の被害は大きくないと考えられる。他方、院内においては多数の医療機器や備品等が使用されていることから、未固定のものについては、揺れにより移動・転倒といった被害を受ける可能性もある。また、当院敷地内は、液状化の危険性が極めて高い地域とされており(『長町-利府線断層の地震による液状化予測マップ』仙台市)、地盤沈下による影響が懸念される。

② ライフライン等の資源の現状

資源	地域の被害想定	病院の現状	院内の停止期間・制約(ギャップ)	備考
①電力	2日間停止	非常発電機3日間稼働	なし	
②重油等燃料	—	非常発電機及びボイラー用としてA重油100,000ℓを貯蔵	なし	
③受水槽	上水道2週間停止	飲料水320 m ³ 雑用水420 m ³ 通常使用の3日分	発災4日目から停止	井水使用

資源	地域の被害想定	病院の現状	院内の停止期間・制約（ギャップ）	備考
④医療ガス	—	酸素ボンベ備蓄 64本（7,000ℓ） 通常使用の約1 か月分	発災1か月目以降 使用不可	
⑤食糧飲料水	上水道2週間 停止	入院患者用 食糧：9食分 飲料水：500ml ペットボトル800本 備蓄 職員用 食糧・飲料水：3 日分備蓄	発災4日目以降食 事提供不可	
⑥医薬品	—	薬剤10日分備蓄 （通常使用分と共 用）	発災11日目以降処 方不可	診療材料はSPD 倉庫の在庫を使用 （備蓄なし）
⑦通信設備	電話10日間停 止	衛星携帯電話、 MCA無線等の使 用が可能	なし	
⑧エレベータ	—	震度5弱以上の 場合は、業者点検 後に復旧	点検完了まで使用 不可	
（参考） 情報システム	—	非常発電による電 力供給により稼働	電力供給が無くな った場合使用不可 （非常発電のみだ と3日目まで）	

③ 参集可能な職員の予測

職員の参集人数予測は、以下の通りである。なお、予想にあたっては、発災後、職員が自宅から参集すると仮定した。

	職員数	発災当日	発災3日目～ 1週間
職員参集率 (注1)	—	50%	80%
職員参集数 合計	1,151名	575名	919名
医師	178名	89名	142名
外科系(注2)	25名	12名	20名
外科系以外	153名	77名	122名
看護師	684名	342名	547名
コメディカル	137名	68名	109名
事務ほか	152名	76名	121名

(注1) 職員参集率は、熊本地震発生日(本震 平成28年4月16日1時25分発生)の熊本赤十字病院の職員参集率(51%)を踏まえて仮定した数値である(参照:「熊本地震2016 熊本赤十字病院の活動記録 - 大震災の教訓と未来への提言」p.40)。発災から3日目にて職員参集率が80%、以後1週間目まで一定し、1週間を過ぎて100%参集すると仮定した。

(注2) 外科系医師:外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科(総務省消防庁「東海地震に係る広域的な地震防災体制のあり方に関する調査検討報告書」資料5「災害応急対策の種類に応じた需要数量、供給数量の算出の考え方」(平成15年3月))

3 想定される医療需要

(1) 医療需要の推移の想定

災害時は、時間の経過とともに変化する医療需要に対し、迅速に対応することが重要である。主な医療需要は次のとおりである。

全体概要	発災直後 発災～6時間	フェーズ1 超急性期 72時間まで	フェーズ2 急性期 1週間程度まで	フェーズ3 亜急性期 2週間～1か月程度まで	フェーズ4 慢性期 3か月程度まで	フェーズ5 中長期 3か月程度以降
傷病者等の状況 (医療ニーズ)	傷病者が広域な範囲で同時多発し、医療需要が短期間で拡大			避難者等の慢性疾患、公衆衛生への対応ニーズが広域な範囲で拡大		
	倒壊・火災・交通事故等の被災現場で救出救助活動が順次開始	救助された外傷系の傷病者への対応ニーズが徐々に拡大、継続	救出救助活動が徐々に収束、外傷系の患者は減滅		避難者の減少とともに医療救護所の規模が徐々に縮小	医療救護所はほぼ閉鎖
	主に軽症者が自力で病院、医療救護所等に致到	人工透析患者、人工呼吸器を要する患者等への対応ニーズが増	避難所等の医療救護所への巡回診療ニーズが徐々に拡大		避難生活の長期化による慢性疾患、公衆衛生、メンタルヘルスへの対応	応急住宅等や在宅の被災者の慢性疾患、メンタルヘルス等への対応
医療資源の状況 (リソース供給)	地域(局所単位)の自立的な活動が中心					
	病院、医療救護所で医療スタッフが不足	自衛隊、日赤等による医療支援開始		都内全域の広域的な活動体制が構築 全国、海外から応援チームが集結		
	病院はライフライン機能低下等により医療提供に制約 交通・通信の途絶も	他県から応援のDMAT等が参集	他県からの応援医療チームが徐々に参集	他県から応援医療チームが徐々に撤退		
		被災地域の災害拠点病院等の病床の臨時拡大がピークに	病院のライフライン機能が徐々に回復	地域の医療機関、薬局等が徐々に再開	地域の医療機関等による平常診療が中心	

(出典) 東京都福祉保健局『大規模地震発生時における災害拠点病院の事業継続計画 (BCP) 策定ガイドライン (初稿版)』 図 2-4

【経過時間ごとの主な医療需要】

① 発災直後～72時間

- ・ 倒壊、火災、交通事故等による負傷者等の発生
- ・ 救助された外傷系の傷病者の搬送 (主に中等傷～重傷者)
- ・ 搬送された外傷系の患者への集中治療
- ・ 自力での病院や医療救護所等への来院 (主に軽傷者)
- ・ 人工透析患者、人工呼吸器を要する患者等への需要が増加

② 発災後4日～7日

- ・ 避難者等の巡回診療への需要が発生

③ 発災後8日～30日

- ・ 避難者等の慢性疾患、公衆衛生等への需要が発生
- ・ こころのケア
- ・ 一般診療の再開

(2) 来院する重傷者数の想定

2(1)の重傷者数を基に、下記の通り、当院に搬送されてくる重傷者数の想定を行った。

① 当院に搬送される重傷者の予想

【仙台市内の重傷者数の推計】 『地震被害想定』で想定される重傷者数 (2(1)参照)	1,290 人
【搬送が予想される重傷者数 (予測)】 =上記の重傷者数/仙台市内の災害拠点病院数 (7病院)	185 人

② 重傷者の治療にあたる外科系医師数の充足状況予測

内訳	重傷者数（病床必要者数）
A 重傷者数（3日間の搬送数と仮定）	185人
B 外科系医師1人当たり診察可能人数 （＝1人当たり5人/日×3日間）（注）	15人
A/B 重傷者対応 外科系医師必要数 （3日間の延べ人数）	13人
C 当院の外科系医師数（3日間の延べ人数） （＝外科系医師数×3日間） （2（3）③参照）	75人
D 発災後3日間の当院の外科系医師予測数 ※ 参集率80%と仮定（＝C×80%）	60人
A/B - D 当院の発災後3日間の外科系医師 過不足	+47人

（注）総務省消防庁「東海地震に係る広域的な地震防災体制のあり方に関する調査検討報告書」資料5「災害応急対策の種類に応じた需要数量、供給数量の算出の考え方」（平成15年3月）より「重傷患者数は（外科系）医師1人当たり1日5人が限度」を参照。（5人/日×3日間＝15人の重傷患者を診察）

（参考）総務省消防庁「東海地震に係る広域的な地震防災体制のあり方に関する調査検討報告書」資料5「災害応急対策の種類に応じた需要数量、供給数量の算出の考え方」（平成15年3月）では、「中等傷患者の治療は、外科系以外の医師が治療する」「医師1人当たりの治療可能患者（中等傷者は20人/1医師）」「中等傷者の治療に外科系以外の医師が全て対応した場合は、日常の患者に対する治療及び日常受療困難者の治療に要する医師が圧倒的に不足する。」とある。

第2章 行動計画

1 非常時優先業務の目標開始時間等

当院として優先的に対応・継続が必要となる通常業務及び、災害時に発生する応急対策業務（これらを総称して「非常時優先業務」という。）については、別紙1「仙台市立病院非常時優先業務総括表（全体）」のとおりとする。また、P.3～5で示された班ごとの非常時優先業務については、別紙2「仙台市立病院非常時優先業務総括表（班別）」のとおりとする。

2 各部署の非常時優先業務の目標開始時間等

1の計画に基づき、各部署において実施する非常時優先業務については、別紙3「部署別非常時優先業務総括表」とおりとする。

3 必要資源の現状と事業継続上の課題

非常時優先業務を遂行するために必要となる資源（人・物・場所・ライフライン等）及び、業務継続上の課題については、別紙4「非常時優先業務ごとの必要資源」とおりとする。

4 診療中止及び避難実施の決定

各班等からの情報により、各必要資源の枯渇の恐れがある場合や、想定を超える数の傷病者の搬送の可能性が高まり、残存する各必要資源での対応が困難となる恐れがある場合、施設設備等の被害が甚大で、診療継続が困難な場合等には、病院事業管理者は、本部員会議による検討を経たうえで、診療の中止または入院患者等の避難の実施を決定することができる。

決定後は、すみやかに診療中止または避難を実施すると共に、早期の診療再開に向けて、必要資源の確保や施設設備の復旧等による病院機能の回復に努めるものとする。

第3章 今後の取組

1 事業継続マネジメント（BCM）の推進

本計画の基本方針にあるように、災害時にも医療を継続するためには、日ごろから本計画を管理・運用する事業継続マネジメント（BCM: Business Continuity Management）を推進していく必要がある。当院では、事業継続計画管理委員会を中心に、以下のPDCAサイクルを通じて、本計画及び本計画の遂行体制の持続的改善に取り組む。

①計画の策定（PLAN）

本計画で定めた非常時優先業務を確実に遂行するため、災害対応の具体的手順について定めた災害対応マニュアルの整備・見直しを行う。

②研修と訓練（DO）

全職員が災害時において的確な対応を取れるよう、本計画の趣旨に基づき、災害対策委員会及び各部門は、継続的に各種訓練・研修を実施する。

③点検と検証（CHECK）

本計画の適切な運用を実現するため、研修や訓練の結果を踏まえ、本計画の点検・検証を適宜行う。

④見直し（ACTION）

上記③の結果により、本計画の内容を見直す必要が生じた場合や、本計画の策定根拠としている諸計画（「仙台市地域防災計画」等）の修正や災害対策の推進等により、本計画の前提要件が変更になった場合には、適宜、本計画の見直しを行う。

2 教育・訓練等

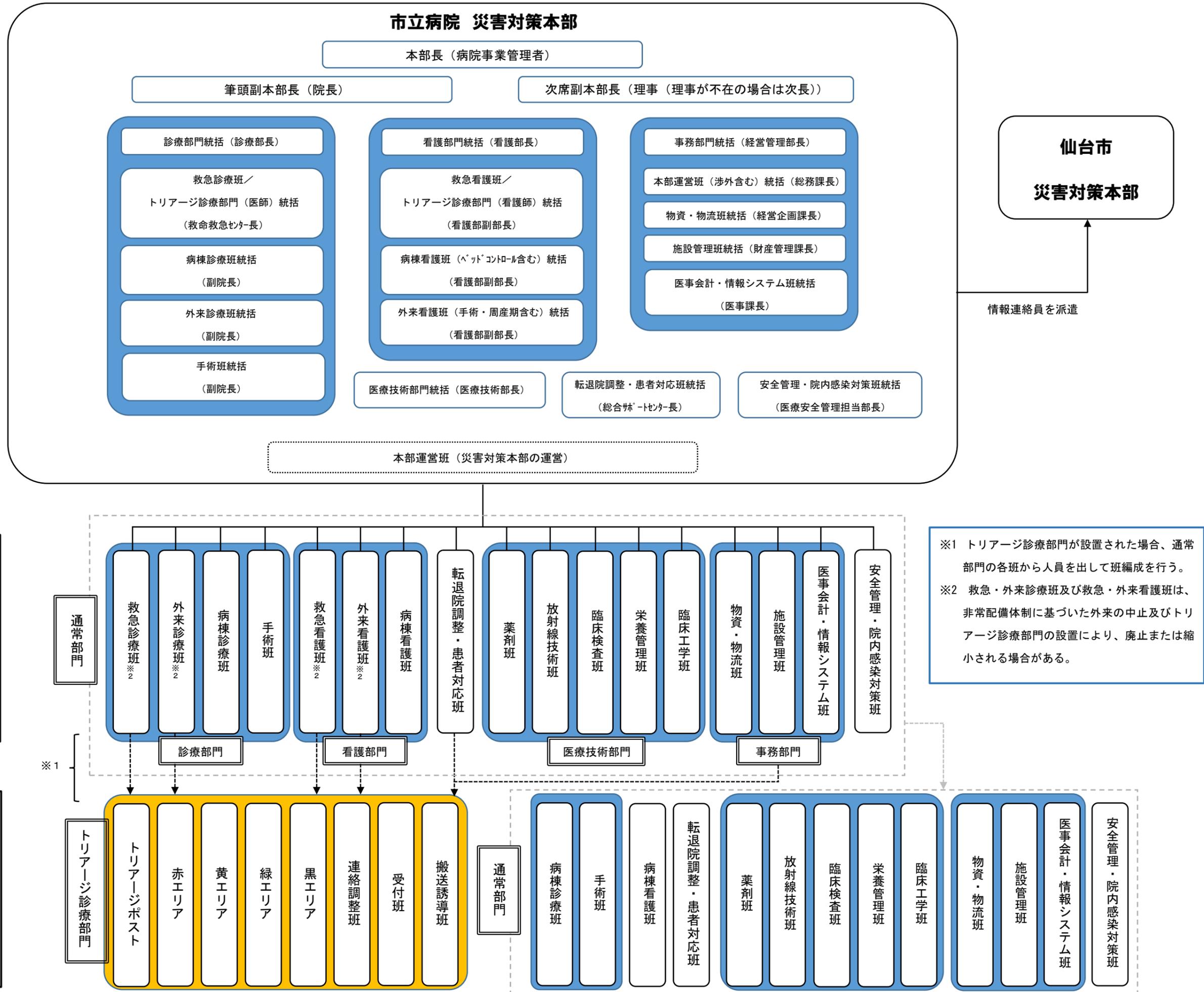
①教育

本計画は、病院全体において策定されたものであり、災害時に職員個々の行動を規定した災害対策マニュアルとは性格の異なるものである。そのため、本計画と災害対策マニュアルの両方を活用した教育を日常的に行うことで、当院の行う災害対応の全体像について全職員へ周知する。

②訓練

BCPに記載した業務が、実際に対応可能なものであるかについて、訓練等により検証を行う必要がある。検証にあたっては、当院の被害想定を踏まえた内容の訓練を行う。また、当院単独でなく地域の医療機関や関係機関等も含めた訓練の実施に努める。

図2 災害対策本部体制図



※1 トリアージ診療部門が設置された場合、通常部門の各班から人員を出して班編成を行う。

※2 救急・外来診療班及び救急・外来看護班は、非常配備体制に基づいた外来の中止及びトリアージ診療部門の設置により、廃止または縮小される場合がある。

仙台市立病院非常時優先業務 総括表(全体)

業務区分	業務内容	担当班	目標レベル	着手時期	目標復旧時期	業務継続計画						応援職員要否	
						フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)		
						1時間	3時間	24時間	72時間	4日~7日	8日~30日		
応急対策業務	入院患者等の安全確保	全職員	入院患者の安全確保を行う	直ちに	直ちに							
	来院者等の安全確保	全職員	外来患者の安全確保を行う	直ちに	直ちに							
	災害対策本部の設置運営	本部運営班	災害対策本部を設置し、被害状況の把握や各種の記録、関係機関への情報収集等を行う	直ちに	1時間以内							○
	病院職員の安否確認・参集状況把握	全職員	各部署の緊急連絡網を利用し、職員の無事の確認や参集人員予測を行う	直ちに	24時間以内							
	外部への被災状況等の発信	本部運営班	EMIS等を利用し、関係機関に対して、被害状況や患者受け入れ状況等の情報を院外に発信する	直ちに	1時間以内							
	広報等	本部運営班	取材対応、市民(患者)向け情報の発信	直ちに	1時間以内							
	傷病者等誘導・規制対応	搬送誘導班	来院する傷病者や帰宅困難者等を適切に誘導するための人員配置を行う	直ちに	1時間以内							○
	受け入れ傷病者のトリアージ	トリアージポスト	当院に来院・搬送されてくる傷病者について、受入れに当たり、重症度により選別(トリアージ)を行う	直ちに	1時間以内							○
	受け入れ傷病者(重症)の診療等	赤エリア	重症の受け入れ傷病者の診療・看護等を行う	直ちに	1時間以内							○
	受け入れ傷病者(中等症)の診療等	黄エリア	中等症の受け入れ傷病者の診療・看護等を行う	直ちに	1時間以内							○
	受け入れ傷病者(軽症)の診療等	緑エリア	軽症の受け入れ傷病者の診療・看護等を行う	直ちに	1時間以内							○
	受け入れ傷病者(死亡他)への対応	黒エリア	受け入れ以後に死亡または救命困難となった傷病者への対応を行う	直ちに	1時間以内							○
	診療エリア間の連絡調整	連絡調整班	トリアージポスト・各診療エリア間及び災害対策本部との間で連絡を取り、情報の伝達・収集や、他エリアとの各種調整を行う	直ちに	1時間以内							○
	受け入れ傷病者の搬送	搬送誘導班	トリアージポスト・各診療エリア間において、傷病者の搬送を行う	直ちに	1時間以内							○
	受け入れ傷病者の受付	受付班	トリアージポスト・各診療エリアに搬送されてくる傷病者の受付を行う	直ちに	1時間以内							○
	患者安否問い合わせ等対応	転退院調整・患者対応班	患者安否に関する問い合わせへの対応や、安否情報の発信を行う	直ちに	1時間以内							○
	ご遺族・ご遺体対応	外来看護班	多数の遺族が発生した場合には、災害死亡者家族支援チーム(DMORT)の活用も含めた対応体制を整備するほか、必要に応じて遺体の移送(遺体安置所等)等を行う	直ちに	24時間以内							○
	施設設備の被害の復旧対応	施設管理班	被害を受けた施設設備の復旧を行い、診療機能を平時レベルに復旧させる程度の回復を図る	直ちに	2週間以内							
	医療機器の被害の復旧対応(院内対応)	臨床工学班	被害を受けた医療機器の修理を行い、診療機能を平時レベルに復旧させる程度の回復を図る	直ちに	2週間以内							
	医療機器の被害の復旧対応(対外調整)	物資・物流班	被害を受けた医療機器の復旧のため、業者等との調整を行い、診療機能を平時レベルに復旧させる程度の回復を図る	直ちに	2週間以内							
情報システム維持管理業務	医事会計・情報システム班	発災後停止した電子カルテ、院内LAN、部門システム等を復旧させる	直ちに	2週間以内								
応援職員の管理等	本部運営班	応援職員の受入れや配置等の管理・調整を行う	24時間以内	3日以内							○	
入院患者の転・退院調整	転退院調整・患者対応班	重傷者の受け入れのための病床確保、又は被災地域外への避難のために転院等の調整を行う	1-3日以内	3日以内								
医薬品・診療材料等の確保(緊急・追加)	物資・物流班	備蓄物資の不足を補うため、緊急に追加の医薬品、診療材料やその他物品等を手配・確保し、診療業務に支障が出ないようにする	1-3日以内	1週間以内								
心理的サポート	転退院調整・患者対応班	専門家等による外部の支援を受け、患者・職員の心理的障害やPTSDに対応する体制を整備する	3-7日以内	2週間以内							○	
優先すべき通常業務	検査業務	臨床検査班	発災後から緊急度・必要度の高い検査に対応できるようにする	直ちに	1時間以内							
	放射線検査・診療業務	放射線技術班	発災後から検査室及び検査機器の損壊、損傷、電源供給を確認し、緊急度・必要度の高い放射線検査等に対応できるようにする	直ちに	1時間以内							○
	薬剤管理業務	薬剤班	発災後から緊急度・必要度の高い調剤・製剤業務に対応できるようにする	直ちに	1時間以内							
	手術業務	手術班	緊急度の高い手術を実施する	直ちに	24時間以内							
	手術補助業務	外来看護班	手術実施に必要な補助業務を行う	直ちに	24時間以内							
	入院診療業務	病棟診療班	入院患者に対する診療を維持する	直ちに	24時間以内							○
	入院看護業務	病棟看護班	入院患者に対する看護を維持する	直ちに	24時間以内							○

業務区分	業務内容	担当班	目標レベル	着手時期	目標復旧時期	業務継続計画						応援職員要否	
						フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)		
						1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日		
優先すべき通常業務	栄養管理業務	栄養管理班	入院患者への食事提供を行う	直ちに	24時間以内								○
	医事業務(受付)	医事会計・情報システム班	入院・外来患者の受診記録	直ちに	24時間以内								
	救急外来診療業務(通常)	救急診療班	救急外来へ搬送・来院する患者に対する診療を行う	3-7日以内	1週間以内								○
	救急外来看護業務(通常)	救急看護班	救急外来へ搬送・来院する患者に対する看護を行う	3-7日以内	1週間以内								○
	衛生環境の整備	安全管理・院内感染対策班	水が使用できない場合のトイレの取扱いの整備や、消毒液や石鹼等の継続的な供給により、感染防止を図る	3-7日以内	1週間以内								
	一般外来診療業務	外来診療班	各診療科による一般外来診療業務を再開する	3-7日以内	30日以内								○
	一般外来看護業務	外来看護班	一般外来看護業務を再開する	3-7日以内	30日以内								○

※ その他、採用試験・職員研修・院内委員会・研究発表等、不要不急の業務については復旧までの間休止する。

仙台市立病院非常時優先業務 総括表(班別)

業務区分	業務内容	担当班	目標レベル	着手時期	目標復旧時期	業務継続計画						応援職員要否
						フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
						1時間	3時間	24時間	72時間	4日~7日	8日~30日	
応急	入院患者等の安全確保	全職員	入院患者の安全確保を行う	直ちに	直ちに	●	●	●	●	●	●	
応急	来院者等の安全確保	全職員	外来患者の安全確保を行う	直ちに	直ちに	●	●	●	●	●	●	
応急	病院職員の安否確認・参集状況把握	全職員	各部署の緊急連絡網を利用し、職員の無事の確認や参集人員予測を行う	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	災害対策本部の設置運営	本部運営班	災害対策本部を設置し、被害状況の把握や各種の記録、関係機関への情報収集等を行う	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	○
応急	外部への被災状況等の発信	本部運営班	EMIS等を利用し、関係機関に対して、被害状況や患者受け入れ状況等の情報を院外に発信する	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	広報等	本部運営班	取材対応、市民(患者)向け情報の発信	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	応援職員の管理等	本部運営班	応援職員の受け入れや配置等の管理・調整を行う	24時間以内	3日以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	救急外来診療業務(通常)	救急診療班	救急外来へ搬送・来院する患者に対する診療を行う	3-7日以内	1週間以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	一般外来診療業務	外来診療班	各診療科による一般外来診療業務を再開する	3-7日以内	30日以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	入院診療業務	病棟診療班	入院患者に対する診療を維持する	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	手術業務	手術班	緊急度の高い手術を実施する	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	
通常	救急外来看護業務(通常)	救急看護班	救急外来へ搬送・来院する患者に対する看護を行う	3-7日以内	1週間以内	●	●	●	●	●	●	○
応急	ご遺族・ご遺体対応	外来看護班	多数の遺族が発生した場合には、災害死亡者家族支援チーム(DMORT)の活用も含めた対応体制を整備するほか、必要に応じて遺体の移送(遺体安置所等)等を行う	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	手術補助業務	外来看護班	手術実施に必要な補助業務を行う	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	
通常	一般外来看護業務	外来看護班	一般外来看護業務を再開する	3-7日以内	30日以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	入院看護業務	病棟看護班	入院患者に対する看護を維持する	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	○
応急	患者安否問い合わせ対応	転退院調整・患者対応班	患者安否に関する問い合わせへの対応や、安否情報の発信を行う	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	○
応急	入院患者の転・退院調整	転退院調整・患者対応班	重傷者の受け入れのための病床確保、又は被災地域外への避難のために転院等の調整を行う	1-3日以内	3日以内	●	●	●	●	●	●	
応急	心理的サポート	転退院調整・患者対応班	専門家等による外部の支援を受け、患者・職員の心理的障害やPTSDに対応する体制を整備する	3-7日以内	2週間以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	薬剤管理業務	薬剤班	発災後から緊急度・必要度の高い調剤・製剤業務に対応できるようにする	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	
通常	放射線検査・診療業務	放射線技術班	発災後から検査室及び検査機器の損壊、損傷、電源供給を確認し、緊急度・必要度の高い放射線検査等に対応できるようにする	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	○
通常	検査業務	臨床検査班	発災後から緊急度・必要度の高い検査に対応できるようにする	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	
通常	栄養管理業務	栄養管理班	入院患者への食事提供を行う	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	○
応急	医療機器の被害の復旧対応	臨床工学班	被害を受けた医療機器の修理を行い、診療機能を平時レベルに復旧させる程度の回復を図る	直ちに	2週間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	医療機器の被害の復旧対応(対外調整)	物資・物流班	被害を受けた医療機器の復旧のため、業者等との調整を行い、診療機能を平時レベルに復旧させる程度の回復を図る	直ちに	2週間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	医薬品・診療材料等の確保(緊急・追加)	物資・物流班	備蓄物資の不足を補うため、緊急に追加の医薬品、診療材料やその他物品等を手配・確保し、診療業務に支障が出ないようにする	1-3日以内	1週間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	施設設備の被害の復旧対応	施設管理班	被害を受けた施設設備の復旧を行い、診療機能を平時レベルに復旧させる程度の回復を図る	直ちに	2週間以内	●	●	●	●	●	●	
通常	医事業務(受付)	医事会計・情報システム班	入院・外来患者の受診記録	直ちに	24時間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	情報システム維持管理業務	医事会計・情報システム班	発災後停止した電子カルテ、院内LAN、部門システム等を復旧させる	直ちに	2週間以内	●	●	●	●	●	●	
通常	衛生環境の整備	安全管理・院内感染対策班	水が使用できない場合のトイレの取扱いの整備や、消毒液や石鹼等の継続的な供給により、感染防止を図る	3-7日以内	1週間以内	●	●	●	●	●	●	
応急	受け入れ傷病者のトリアージ	トリアージポスト	当院に来院・搬送されてくる傷病者について、受け入れに当たり、重症度により選別(トリアージ)を行う	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	○
応急	受け入れ傷病者(重症)の診療等	赤エリア	重症の受け入れ傷病者の診療・看護等を行う	直ちに	1時間以内	●	●	●	●	●	●	○

業務区分	業務内容	担当班	目標レベル	着手時期	目標復旧時期	業務継続計画						応援職員要否
						フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
						1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
応急	受け入れ傷病者(中等症)の診療等	黄エリア	中等症の受け入れ傷病者の診療・看護等を行う	直ちに	1時間以内	■	■	■▶			○
応急	受け入れ傷病者(軽症)の診療等	緑エリア	軽症の受け入れ傷病者の診療・看護等を行う	直ちに	1時間以内	■	■	■▶			○
応急	受け入れ傷病者(死亡他)への対応	黒エリア	受け入れ以後に死亡または救命困難となった傷病者への対応を行う	直ちに	1時間以内	■	■	■▶			○
応急	診療エリア間の連絡調整	連絡調整班	トリアージポスト・各診療エリア間及び災害対策本部との間で連絡を取り、情報の伝達・収集や、他エリアとの各種調整を行う	直ちに	1時間以内	■	■	■▶			○
応急	傷病者等誘導・規制対応	搬送誘導班	来院する傷病者や帰宅困難者等を適切に誘導するための人員配置を行う	直ちに	1時間以内	■	■	■▶▶		○
応急	受け入れ傷病者の搬送	搬送誘導班	トリアージポスト・各診療エリア間において、傷病者の搬送を行う	直ちに	1時間以内	■	■	■▶			○
応急	受け入れ傷病者の受付	受付班	トリアージポスト・各診療エリアに搬送されてくる傷病者の受付を行う	直ちに	1時間以内	■	■	■▶			○

※ その他、採用試験・職員研修・院内委員会・研究発表等、不要不急の業務については復旧までの間休止する。

部署別非常時優先業務 総括表

部署名: 総務課

○ 職員数(平常時)

現員数	27
(うち正職員数)	16
勤務者数(平日日中)	27
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
本部運営班	
連絡調整班	トリアージ診療部門

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			2	3	14	22	22	27
業務区分	業務内容	担当班						
応急	災害対策本部の設置運営	本部運営班	—————▶				▶
応急	外部への被災状況等の発信	本部運営班	—————▶				▶	
応急	広報等	本部運営班	—————▶					▶
応急	応援職員の管理等	本部運営班			—————▶		▶
応急	診療エリア間の連絡調整	連絡調整班			—————▶			

○ 職員数(平常時)

現員数	10
(うち正職員数)	9
勤務者数(平日日中)	10
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
本部運営班	企画財務係が対応
物資・物流班	契約係が対応
連絡調整班	トリアージ診療部門

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			1	2	5	8	8	10
業務区分	業務内容	担当班						
応急	災害対策本部の設置運営	本部運営班	—————→				→
応急	外部への被災状況等の発信	本部運営班	—————→					
応急	広報等	本部運営班	—————→					
応急	応援職員の管理等	本部運営班			—————→		→
応急	医療機器の被害の復旧対応(対外調整)	物資・物流班	—————→					
応急	医薬品・診療材料等の確保(緊急・追加)	物資・物流班			—————→			
応急	診療エリア間の連絡調整	連絡調整班			→		

○ 職員数(平常時)

現員数	66
(うち正職員数)	15
勤務者数(平日日中)	66
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
医事会計・情報システム班	
連絡調整班	トリアージ診療部門
受付班	トリアージ診療部門

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			2	3	33	53	53	66
業務区分	業務内容	担当班						
通常	医事業務(受付)	医事会計・情報システム班	—————▶					
応急	情報システム維持管理業務	医事会計・情報システム班	—————▶					
応急	診療エリア間の連絡調整	連絡調整班	—————▶			▶	
応急	受け入れ傷病者の受付	受付班	—————▶			▶	

○ 職員数(平常時)

現員数	16
(うち正職員数)	11
勤務者数(平日日中)	16
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
物資・物流班	医療管財係が対応
施設管理班	施設係が対応

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			1	2	8	13	13	16
業務区分	業務内容	担当班						
応急	医療機器の被害の復旧対応(対外調整)	物資・物流班						
応急	医薬品・診療材料等の確保(緊急・追加)	物資・物流班						
応急	施設設備の被害の復旧対応	施設管理班						

○ 職員数(平常時)

現員数	27
(うち正職員数)	18
勤務者数(平日日中)	27
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
転退院調整・患者対応班	
搬送誘導班	トリアージ診療部門

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			2	4	14	22	22	27
業務区分	業務内容	担当班						
応急	患者安否問い合わせ対応	転退院調整・患者対応班	→					
応急	入院患者の転・退院調整	転退院調整・患者対応班			→			
応急	心理的サポート	転退院調整・患者対応班				→		
応急	傷病者等誘導・規制対応	搬送誘導班	→				→	
応急	受け入れ傷病者の搬送	搬送誘導班	→			→		

○ 職員数(平常時)

現員数	4
(うち正職員数)	4
勤務者数(平日日中)	4
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
安全管理・院内感染対策班	

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			0	1	2	3	3	4
業務区分	業務内容	担当班						
通常	衛生環境の整備	安全管理・院内感染対策班					—————▶	

部署名: 薬剤科 _____

○ 職員数(平常時)

現員数	29
(うち正職員数)	23
勤務者数(平日日中)	29
勤務者数(夜間休日)	1

○ 非常時に従事する班

班名	備考
薬剤班	

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			2	5	15	23	23	29
業務 区分	業務内容	担当班						
通常	薬剤管理業務	薬剤班						→

○ 職員数(平常時)

現員数	27
(うち正職員数)	22
勤務者数(平日日中)	25
勤務者数(夜間休日)	2

○ 非常時に従事する班

班名	備考
放射線技術班	

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			2	4	14	22	22	27
業務区分	業務内容	担当班						
通常	放射線検査・診療業務	放射線技術班						

○ 職員数(平常時)

現員数	33
(うち正職員数)	28
勤務者数(平日日中)	26
勤務者数(夜間休日)	2

○ 非常時に従事する班

班名	備考
臨床検査班	

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			13	17	20	26	26	33
業務 区分	業務内容	担当班						
通常	検査業務	臨床検査班						

○ 職員数(平常時)

現員数	16
(うち正職員数)	14
勤務者数(平日日中)	16
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
搬送誘導班	トリアージ診療部門

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			6	10	15	16	16	16
業務区分	業務内容	担当班						
応急	傷病者等誘導・規制対応	搬送誘導班	—————	—————	—————	—————▶	
応急	受け入れ傷病者の搬送	搬送誘導班	—————	—————	—————▶		

○ 職員数(平常時)

現員数	7
(うち正職員数)	6
勤務者数(平日日中)	7
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
栄養管理班	

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			1	5	6	6	6	7
業務 区分	業務内容	担当班						
通常	栄養管理業務	栄養管理班						→

○ 職員数(平常時)

現員数	10
(うち正職員数)	10
勤務者数(平日日中)	10
勤務者数(夜間休日)	0

○ 非常時に従事する班

班名	備考
臨床工学班	

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			1	2	5	8	8	10
業務区分	業務内容	担当班						
応急	医療機器の被害の復旧対応(院内対応)	臨床工学班						→

○ 職員数(平常時)

現員数	684
(うち正職員数)	587
勤務者数(平日日中/休日日中)	210/108
勤務者数(準夜/深夜)	59/55

○ 非常時に従事する班

班名	備考
救急看護班	
外来看護班	
病棟看護班	
トリアージポスト	トリアージ診療部門
赤エリア	トリアージ診療部門
黄エリア	トリアージ診療部門
緑エリア	トリアージ診療部門
黒エリア	トリアージ診療部門

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			59	150	324	324	324	324
業務区分	業務内容	担当班						
通常	救急外来看護業務(通常)	救急看護班						
応急	ご遺族・ご遺体対応	外来看護班						
通常	手術補助業務	外来看護班						
通常	一般外来看護業務	外来看護班						
通常	入院看護業務	病棟看護班						
応急	受け入れ傷病者のトリアージ	トリアージポスト			→		
応急	受け入れ傷病者(重症)の診療等	赤エリア			→		
応急	受け入れ傷病者(中等症)の診療等	黄エリア			→		
応急	受け入れ傷病者(軽症)の診療等	緑エリア			→		
応急	受け入れ傷病者(死亡他)への対応	黒エリア			→		

○ 職員数(平常時)

現員数	177
(うち正職員数)	118
勤務者数(平日日中)	130
勤務者数(夜間/休日)	11/17

○ 非常時に従事する班

班名	備考
救急診療班	
外来診療班	
病棟診療班	
手術班	
トリアージポスト	トリアージ診療部門
赤エリア	トリアージ診療部門
黄エリア	トリアージ診療部門
緑エリア	トリアージ診療部門
黒エリア	トリアージ診療部門

○ 非常時優先業務総括表(従事する班の業務)

フェーズ			フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
			1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
参集可能人員想定			24	37	65	104	104	130
業務区分	業務内容	担当班						
通常	救急外来診療業務(通常)	救急診療班				→		
通常	一般外来診療業務	外来診療班				→		
通常	入院診療業務	病棟診療班				→		
通常	手術業務	手術班				→		
応急	受け入れ傷病者のトリアージ	トリアージポスト	→			→		
応急	受け入れ傷病者(重症)の診療等	赤エリア	→			→		
応急	受け入れ傷病者(中等症)の診療等	黄エリア	→			→		
応急	受け入れ傷病者(軽症)の診療等	緑エリア	→			→		
応急	受け入れ傷病者(死亡他)への対応	黒エリア	→			→		

非常時優先業務ごとの必要資源

業務名		入院患者等の安全確保						
担当班		全職員						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	全職員(近くにいる入院患者等に声掛け等を行い、身体を保護させる)					
		課題・懸案事項	自分自身の安全確保を最優先に行う必要がある					
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	ライフライン	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	場所(会議室等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	具体的な対応方法は「災害対策マニュアル」を参照					
		課題・懸案事項						

業務名		来院者等の安全確保					
担当班		全職員					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	全職員(近くにいる来院者に声掛け等を行い、身体を保護させる)				
		課題・懸案事項	自分自身の安全確保を最優先に行う必要がある				
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					
	ライフライン	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					
場所(会議室等)	必要数量・仕様						
	課題・懸案事項						
組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	具体的な対応方法は「災害対策マニュアル」を参照					
	課題・懸案事項						

業務名		災害対策本部の設置運営					
担当班		本部運営班					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	4名(総務課) 2名(経営企画課)	6名(総務課) 2名(経営企画課)	→	→	→
		課題・懸案事項	参集状況によっては、災害対策本部の機能を十分に発揮できない可能性がある	→	→		
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	机、椅子、ホワイトボード、ライティングシート、筆記用具、セロテープ、付箋、PC、プリンター、コピー複合機、通信手段(PHS、トランシーバー、衛星携帯電話、MCA無線、防災用行政無線)	→	→	→	→
		課題・懸案事項	現状の通信手段では台数に制限があり、各部署ごとに外部と連絡を取る際に連絡が付きにくいことが考えられる。	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	電力、通信回線	→	→	→	→
		課題・懸案事項	通信回線が不通の場合、連絡や情報収集の手段が制限される	→	→	→	3日目までに非常発電機の燃料が枯渇する
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	本院3階第1会議室	→	→	→	→
		課題・懸案事項	建物の破損等により、会議室を使用できない場合がある	→	→	→	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	運営体制・運営要領は「災害対策マニュアル」を参照	→	→	→	→
		課題・懸案事項					

業務名		病院職員の安否確認・参集状況把握					
担当班		全職員					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(各部署)	→	→		
		課題・懸案事項	参集人数の確認をメインに行う	→	未参集者の安否確認をメインに行う		
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	・参集人員の集計様式 ・安否確認情報記載用 共通フォーマット ・作業用PC1台(通常業務使用のもので可)	→	→		
		課題・懸案事項	なし				
	ライフライン	必要数量・仕様	・電力、通信回線	→	→		
		課題・懸案事項					
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	・3階事務室	→	→		
		課題・懸案事項	なし				
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	・適宜災害対策本部に状況を報告	→	→		
		課題・懸案事項	なし				

業務名		外部への被災状況等の発信						
担当班		本部運営班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(総務課)	→	→	→	→	
		課題・懸案事項						
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	PC、災害時優先電話、衛星携帯電話、MCA無線、防災用行政無線	→	→	→	→	
		課題・懸案事項	外部との通信手段が不足しており、情報発信が十分にできない	→	→	→	停電が復旧しない場合、非常発電機が使用不可となり、通信が困難になる	
	ライフライン	必要数量・仕様	電力、通信回線	→	→	→	→	
		課題・懸案事項	通信回線が不通の場合、情報発信の手段が制限される	→	→	→	3日目までに非常発電機の燃料が枯渇する	
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階第1会議室、3階事務室	→	→	→	→	
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	当院の被災状況については、基本的にEMISにより発信する	→	→	→	→	
		課題・懸案事項						

業務名		広報等						
担当班		本部運営班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	2名(総務課、主に取材対応及びホームページや張り出しを利用した広報活動)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	個別対応件数が多いと、少数の職員のみでは対応が困難となる	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	PC、災害時優先電話、模造紙(張り出し用)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	ライフライン	必要数量・仕様	電力、通信回線	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	通信回線が不通の場合、連絡や情報収集の手段が制限される	→	→	→	3日目までに非常発電機の燃料が枯渇する	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階第1会議室、3階事務室	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	公表可能な情報の範囲は、災害対策本部にて決定	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						

業務名		傷病者等誘導・規制対応					
担当班		搬送誘導班					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(サポセン) 6名(リハ科)	1名(サポセン) 10人(リハ科)	1名(サポセン) 15人(リハ科)	→	
		課題・懸案事項	優先度の高い業務ではあるが、参集状況と他業務との兼ね合いで人員配置が制限される	→	→	→	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	誘導表示、案内板など	→	→	→	
		課題・懸案事項					
	ライフライン	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	1階	→	→	→	
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					

業務名		受け入れ傷病者のトリアージ					
担当班		トリアージポスト					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	3名(診療部) 準夜帯・救外-2名・一般外来-1名 計3名(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項	傷病者の受入れ検討・準備	院外傷病者の受入れ・診療開始(救外・一般外来)	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時+α分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→		
		課題・懸案事項	診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→		
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により外来診療に支障がでない対応が必要	→	→		
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→		
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→		
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項					

業務名		受け入れ傷病者(重症)の診療等 [※]					
担当班		赤エリア					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	4名(診療部) 準夜帯・救外-5名・一般外来-3名 計8名(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項	傷病者の受け入れ検討・準備	院外傷病者の受け入れ・診療開始(救外・一般外来)	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時+α分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→		
		課題・懸案事項	診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→		
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により外来診療に支障がでない対応が必要	→	→		
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→		
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→		
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項					

※ 救急外来診療・一般外来診療に準ずる

業務名		受け入れ傷病者(中等症)の診療等 [※]					
担当班		黄エリア					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	4名(診療部) 準夜帯・救外-5名・一般外来-3名 計8名(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項	傷病者の受け入れ検討・準備	院外傷病者の受け入れ・診療開始(救外・一般外来)	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時+α分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→		
		課題・懸案事項	診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→		
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により外来診療に支障がでない対応が必要	→	→		
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→		
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→		
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項					

※ 救急外来診療・一般外来診療に準ずる

業務名		受け入れ傷病者(軽症)の診療等 [※]						
担当班		緑エリア						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	2名(診療部) 準夜帯・一般外来-4名 計4名(看護部)	→	→			
		課題・懸案事項	傷病者の受入れ検討・準備	院外傷病者の受入れ・診療開始(救外・一般外来)	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応		
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時+α分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→			
		課題・懸案事項	診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→			
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により外来診療に支障がでない対応が必要	→	→			
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→			
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→			
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→			
		課題・懸案事項						

※ 救急外来診療・一般外来診療に準ずる

業務名		受け入れ傷病者(死亡他)への対応※					
担当班		黒エリア					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(診療部) 準夜帯・一般外来-2名 計2名(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項	傷病者の受入れ検討・準備	院外傷病者の受入れ・診療開始(救外・一般外来)	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時+α分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→		
		課題・懸案事項	診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→		
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により外来診療に支障がでない対応が必要	→	→		
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→		
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→		
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→		
		課題・懸案事項					

※ 救急外来診療・一般外来診療に準ずる

業務名		診療エリア間の連絡調整					
担当班		連絡調整班					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	3名(総務課) 1名(経営企画課) 1名(医事課)	→	→		
		課題・懸案事項	傷病者の受入れ検討・準備	院外傷病者の受入れ・診療開始(救外・一般外来)	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	通信手段(PHS、トランシーバー)5台	→	→		
		課題・懸案事項	通信設備が復旧していないと連絡不可(その場合には、職員が直接連絡に向かう)	→	→		
	ライフライン	必要数量・仕様	電気	→	→		
		課題・懸案事項	電気が復旧していない場合、通信設備が使用不可	→	→		
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	各診療エリア	→	→		
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					

業務名		受け入れ傷病者の搬送					
担当班		搬送誘導班					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(サボセン) 6名(リハ科)	1名(サボセン) 10人(リハ科)	1名(サボセン) 15人(リハ科)		
		課題・懸案事項	優先度の高い業務ではあるが、参集状況と他業務との兼ね合いで人員配置が制限される	→	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	車椅子、ストレッチャーなど	→	→		
		課題・懸案事項	被災後の負傷等により来院した患者の搬送用に必要であるが、保管場所等の問題があり、準備できる台数に制限がある誘導、案内方法の検討が必要	→	→		
	ライフライン	必要数量・仕様	電気・水道・防災設備・通信設備など				
		課題・懸案事項	エレベーターが復旧していない場合、患者搬送が困難	→	→		
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	トリアージポスト、各診療エリア	→	→		
		課題・懸案事項	エリア間の動線の確保	→	→		
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	搬送にあたる職員への組織的な指示が必要				
		課題・懸案事項	班員は医療者ではないため、患者搬送中に患者が急変した場合の対処について、あらかじめ取り決めが必要				

業務名		受け入れ傷病者の受付					
担当班		受付班					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	5名(医事課)	→	→		
		課題・懸案事項	傷病者の受入れ検討・準備	院外傷病者の受入れ・診療開始(救外・一般外来)	→	以後、通常の救急外来診療、一般外来診療により対応	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	受付表、ホワイトボード5台、筆記用具、机5台、通信用トランシーバー	→	→		
		課題・懸案事項					
	ライフライン	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	各エリア	→	→		
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					

業務名		患者安否問い合わせ等対応						
担当班		転退院調整・患者対応班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	2名(サポセン)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	対応件数が多い場合、少数の職員での対応が困難	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	PC、電話、防災用無線等の通信機器	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	情報の掲示場所の確保と掲示方法をあらかじめ決定しておく必要がある	→	→	→	停電が復旧していない場合、非常用電源が使用不能となり、通信が困難となる	→
	ライフライン	必要数量・仕様	電力、通信回線	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	通信回線が不通の場合、通信や情報収集の手段が制限される	→	→	3日目までに非常発電機燃料が枯渇する	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	1階総合サポートセンター事務室、相談室	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	問い合わせへの回答内容により、プライバシーや心情的な配慮が必要となる	→	→	→	→	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	安否情報の公表範囲や方法は災害対策本部が決定	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	対応内容により広報班との事前調整が必要となる場合が想定される	→	→	→	→	→

業務名		ご遺族・ご遺体対応						
担当班		外来看護班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	準夜帯 一般外来人員15名の内の2名が対応する(看護部)	→	→	この時期より、遺体・遺族対応は、対象者発生部署である「救外」or「病棟」にて対応する。	→	→
		課題・懸案事項	遺体・遺族の受入れ検討・準備	一般外来での院外傷病者受入れ・診療開始(トリアージ黒)	→			
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	ライフライン	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	場所(会議室等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						

業務名		施設設備の被害の復旧対応						
担当班		施設管理班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	夜間:2名(中央監視室) 4名(防災センター)	病院職員:3~4名 中央監視室:5名程度 防災センター:5名程度	全員	→	→	→
		課題・懸案事項	・建物・設備の被害状況調査 ・緊急停止設備の運転再開(可能な場合) ・エレベーター閉じ込め人員の有無確認	・設備運転維持監視 ・破損設備応急補修 ・エレベーター点検業者による緊急点検復旧(可能な場合)	・設備運転維持監視 ・各設備保守業者の点検復旧作業 ・重油・受水槽・高架水槽残量確認 ・重油手配(非常用発電機運転の場合)	・設備運転維持監視 ・停止設備復旧状況確認 ・破損設備修繕	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	懐中電灯・応急修繕材料・工具等	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	ライフライン	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項	優先的に復旧すべき設備 ・受変電設備 ・非常用発電設備 ・給排水設備 ・医療用ガス設備	→	→	→		
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	・中央監視室 ・防災センター	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						

業務名		医療機器の被害の復旧対応(院内対応)						
担当班		臨床工学班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	10名(臨床業務優先、ICUなどでの生命維持管理装置の復旧に努める)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	非常電源設備からの電源供給が最低条件					
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	外部バッテリー?	→	保有部品により院内応急修理	→	修理部品の供給により院内修理実施	院内修理不可能な外注修理による対応
		課題・懸案事項	非常電源設備にダメージがあり電源供給が安定しない場合は外部バッテリーの調達が必要 衛星携帯電話1台 院内連絡用トランシーバ10台				物流の回復状況による	→
	ライフライン	必要数量・仕様	維持透析用の透析液の確保(キンダリー液は10箱常備)			→	→	→
		課題・懸案事項	井戸水を処理する水処理システムの状態による					
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	ME室	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	部署別災害対策マニュアルを参照					
		課題・懸案事項						

業務名		医療機器の被害の復旧対応(対外調整)						
担当班		物資・物流班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(本部において、医療機器の被害状況等を集約)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	物資・物流班に家用機器の被害状況等を報告する各部署や滅菌業者の人員が不足した場合、物資・物流班における情報集約が的確に行えず、復旧対応への影響が出る。	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	ホワイトボード(2台) マジック(3色×2セット) 模造紙(10枚) マグネット(10個)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	ライフライン	必要数量・仕様	衛星携帯電話(1台、共用可) トランシーバ(係5台、業者用4台)(他業務共用)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項				物流がストップした場合、医療機器等の業者修理、部品や代替品調達などができない。	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	「災害対策マニュアル」を参照					
		課題・懸案事項						

業務名		情報システム維持管理業務						
担当班		医事会計・情報システム班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1人(医事課)	→	4人(医事課)	→	→	
		課題・懸案事項	被害状況によって対応が異なるが、システム回復が長期に及ぶ場合の運用について決めておく必要がある。					
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	紙カルテ、各種伝票					
		課題・懸案事項	システム停止した場合に使用する帳票について予め決めておく必要がある。					
	ライフライン	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	場所(会議室等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						

業務名		応援職員の管理等						
担当班		本部運営班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様			5名(総務課)	→	→	→
		課題・懸案事項			・宿舎等は自前に対応願いたい、無策で来た人への対応が必要	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様			・業務用PC(5台) ・電話(3台) ・応援職員の食糧	→	→	→
		課題・懸案事項			・身一つで来院した人へは食事のフォローが必要	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様					・電力	→
		課題・懸案事項					・電力供給が普及しない場合PCでの作業不可	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様			・本院3階第2会議室(応援職員の待機場所・休憩場所として使用)	→	→	→
		課題・懸案事項			・何名応援に来るかが未知数。場合によっては場所が足りなくなる	→	→	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様			・適宜災害対策本部に状況を報告	→	→	→
		課題・懸案事項			なし	→	→	→

業務名		入院患者の転・退院調整						
担当班		転退院調整・患者対応班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(サポセン)	→	2名(サポセン)	→	→	→
		課題・懸案事項	自部署の被害状況確認と職員の参集状況を確認するため、必要人員を確保できない可能性がある	→	被災地外医療機関の受け入れ状況把握及び後方医療機関への患者の振り分け方法に検討が必要	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様			搬送用車両、通信機器など	→	→	→
		課題・懸案事項		→	人工透析患者の広域搬送に伴う情報収集、重軽傷者別の受け入れ先の情報収集等の手段及び移送方法確保に検討が必要 EMISや県システム、災害時医療情報網を通じて情報収集する必要がある	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	場所(会議室等)	必要数量・仕様			県災害対策本部、県保健福祉部医療政策課へ情報収集	→	→	→
		課題・懸案事項			後方受け入れ医療機関の情報収集と転院医療機関との調整を要する	→	→	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様			転・退院調整が必要な場合は、総合サポートセンターに依頼する	→	→	→
		課題・懸案事項			転院調整をするにあたり、患者家族への説明と同意が重要となる			

業務名		医薬品・診療材料等の確保(緊急・追加)					
担当班		物資・物流班					
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1名(財産管理課)(本部として、医薬品・医療用資器材等の不足状況等を集約)	→	1名(財産管理課) 2名(経営企画課) (本部として、医薬品・医療用資器材等の不足状況等を集約)	→	→
		課題・懸案事項	物資・物流班に医薬品等の不足を報告する各部署やSPD業者の人員が不足した場合、物資・物流班における情報集約が的確に行えず、診療等への影響が出る。	→		→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	ホワイトボード(2台) マジック(3色×2セット) 模造紙(10枚) マグネット(10個)	→	→	→	→
		課題・懸案事項					
	ライフライン	必要数量・仕様	衛星携帯電話(1台、共用可) トランシーバ(係5台、業者用4台)(他業務共用)	→	→	→	→
		課題・懸案事項				備蓄品以外の医薬品等が必要となった場合で、物流がストップした場合、調達ができない。	備蓄品は10日分程度確保されているが、物流がストップした場合、調達ができない。
	場所(会議室等)	必要数量・仕様					
		課題・懸案事項					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	「災害対策マニュアル」を参照				
		課題・懸案事項					

業務名		心理的サポート						
担当班		転退院調整・患者対応班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様					2名(総サホ)	→
		課題・懸案事項					こころの相談(チーム編成、窓口、周知方法の検討が必要)	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様					事務用品、PC	→
		課題・懸案事項						
	ライフライン	必要数量・仕様					電気・通信設備など	→
		課題・懸案事項					停電が復旧していない場合、非常用電源が使用不能となり、PC・電子カルテ作業が困難となる	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様					総合サポートセンター内 面談室	→
		課題・懸案事項					院内スタッフ及び受診患者のプライバシー、個人情報保護に留意する必要がある	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様					相談対象、受付方法・手段など事前に取り決めが必要	
		課題・懸案事項					精神科の診療や臨床心理士が行うカウンセリングと相談業務の区別をどう図るか検討が必要	→

業務名		検査業務						
担当班		臨床検査班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	13名(緊急検査機器立ち上げ)	17名(ルチン機器立ち上げ)	20名(生理検査を含めた検査稼働開始)	26名(通常運用)	33名	33名
		課題・懸案事項	機器障害の程度により状況は流動的	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	検査試薬	検査試薬・検査資材・輸血血液製剤	→	→	→	→
		課題・懸案事項		試薬・資材・製剤の在庫状況により調達(日赤センターとの調整)	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	電力(自家発電)・水(純水装置)、	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	純水装置が稼働しない場合は純水の調達が必要となる。	→	→	→	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	2F検体検査・輸血管理室	2F検体検査・輸血管理室・生理検査室	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	電カル・検査システム運用	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	両者使用不可の場合伝票対応	→	→	→	→	→

業務名		放射線検査・診療業務						
担当班		放射線技術班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	10名	→	15名	→	20名	→
		課題・懸案事項	平日日中であれば10名程度。夜間休日の場合は参集人員が5～6名の予想	平日日中であれば10名程度。夜間休日の場合は参集人員が5～6名の予想	各個人の個別問題の有無により増減あり。また使用可能な検査機器数により必要人員は増減。	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	通常在庫で対応	→	→	造影剤等	→	→
		課題・懸案事項				メーカーが供給出来るか否かが問題	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	装置への電源供給 PHS数台	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	電源がどこまで確保出来るか。また機器損傷の度合い。	→	→	→	機器損傷の場合、メーカー修理が可能か否か	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	各検査室	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	天井や壁の落下の恐れ。防護扉の開閉の可能性	→	→	→	→	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	仙台市立病院災害対策マニュアルを参照	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						

業務名		薬剤管理業務						
担当班		薬剤班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	18名	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	想定する災害が発災後3時間は、本部員の参集が16名の予測	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	医薬品の確保。手書き用処方箋、薬袋 各500枚、薬品搬送用台車10台	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	処方・薬袋の手書きに普段、慣れていないこと	→	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	最低限の調剤ができるよう非常用電源は確保している	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	電力供給かなければ、医薬品の供給が難しい	→	→	→	通常の電力供給が復旧していない場合、4日目以降は電源使用不可	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	本院地下スタッフ室	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	天井板が落下する恐れ、地下のため電力供給がないと暗い	→	→	→	→	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	運営体制・運営要領は「災害対策マニュアル」を参照	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	—	→	→	→	→	→

業務名		手術業務						
担当班		手術班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	参集済みの外科系医師	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	予定手術の継続・災害に係る臨時手術への対応について検討・準備・実施	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時に近い手術・診療材料・手術機器の必要数量	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	手術・診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により手術に支障がでない対応が必要	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→	→	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	4階手術センター カンファレンス室での関係職種参加での会議	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	手術を実施・継続する上での問題の洗出し・解決手段の検討、決定					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						

業務名		手術補助業務						
担当班		外来看護班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	準夜帯-8名	→	日中-18名 準夜-5名 深夜-5名	→	→	通常の勤務体制・通常業務
		課題・懸案事項	予定手術の継続・災害に係る臨時手術への対応について検討・準備・実施	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時に近い手術・診療材料・手術機器・看護ケア用品の必要数量	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	手術・診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により手術に支障がでない対応が必要	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→	→	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	4階手術センター カンファレンス室での関係職種参加での会議	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	手術を実施・継続する上での問題の洗出し・解決手段の検討、決定					
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	看護部:各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、第〇会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う。	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						

業務名		入院診療業務						
担当班		病棟診療班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	12名(診療部)	→	42名(診療部)	→	→	→
		課題・懸案事項	入院患者の診療を安全に支障なく継続	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時に近い診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により入院患者の生活に支障がでない対応が必要	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→	→	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様		→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						

業務名		入院看護業務						
担当班		病棟看護班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル)	必要数量・仕様	準夜帯-49名(看護部)	→	平日日中-210名 各夜勤帯-49名(看護部)	→	→	→
		課題・懸案事項	入院患者の看護を安全に支障なく継続	→	→	→	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	平常時に近い診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	ライフラインの被害により入院患者の生活に支障がでない対応が必要	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→	→	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項						

業務名		栄養管理業務							
担当班		栄養管理班							
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)		
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日		
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	病院側4名 委託側10名	病院側6名 委託側10名	→	→	病院側6名 委託側10名 応援職員:各病棟2名	→	
		課題・懸案事項	—	→	→	→	電力供給がなくなったらエレベーターが使用できないため食事を人力で病棟まで運ぶ必要有	→	
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	スチームコンベクション大1台・小1台、IHコンロ大1台、自動粥調理器、食器洗浄機、食器消毒保管庫2台、温冷配膳車(各階配膳室での電源は不可、厨房内のみ可)、プレハブ冷凍庫・冷蔵庫、牛乳保冷库				食器洗浄が不可になったらディスプレイ使用	救援物資で対応	
		課題・懸案事項	調理機器の使用可能な範囲によって献立の変更が必要になる。	→	→	食材が入らなくなったら時点で備蓄食品を使用する。	上下水道が復旧するまでディスプレイの在庫がなくなる可能性あり。	特別食や嚥下食、濃厚流動食の対応が難しくなることが予想される。	
	ライフライン	必要数量・仕様	電力、上下水道					—	—
		課題・懸案事項	状況に応じて献立等変更必要となる。					通常の電力供給が復旧していない場合、4日目を降は電源使用不可	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	本院3階厨房	→	→	→	→	→	
		課題・懸案事項	—	→	→	→	→	→	
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	運営体制は「栄養管理科災害マニュアル」を参照	→	→	→	→	→	
		課題・懸案事項	—	→	→	→	→	→	

業務名		医事業務(受付)						
担当班		医事会計・情報システム班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	1人(医事課)	2人(医事課)	5人(医事課)	→	→	→
		課題・懸案事項						
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	各種伝票、筆記用具	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	電子カルテシステムが停止した場合の伝票運用体制に慣れていない。	→	→	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	場所(会議室等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						

業務名		救急外来診療業務(通常)						
担当班		救急診療班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様				7名(診療部)	→	→
		課題・懸案事項				トリアージ診療対応から切り替え	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様				平常時+ α 分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→
		課題・懸案事項				診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様				ライフラインの被害により外来診療に支障がない対応が必要	→	→
		課題・懸案事項				ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様				3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						

業務名		救急外来看護業務(通常)						
担当班		救急看護班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様				救外(日JS)-12・8・6名 (看護部)	→	救外(日JS)-10・7・5名 (看護部)
		課題・懸案事項				トリアージ診療対応から切り替え	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様				平常時+α分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→
		課題・懸案事項				診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様				ライフラインの被害により外来診療に支障がない対応が必要	→	→
		課題・懸案事項				ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様				3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様				各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→
		課題・懸案事項						

業務名		衛生環境の整備						
担当班		安全管理・院内感染対策班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様	4名(医療安全管理課)	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	想定する災害発生後3時間は2名～3名の参集を予測	→	—	—	—	—
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様	個人防護具(手袋・サージカルマスク・エプロン等)・擦式アルコール手指消毒剤・消毒薬含浸クロス・次亜塩素酸ナトリウム・ポータブルトイレ等の確保	→	感染性廃棄物容器・感染性廃棄物保管場所の確保	→	→	→
		課題・懸案事項	上・下水道の利用が滞った場合に衛生環境の悪化が懸念される	→	感染性廃棄物回収業者が機能しない場合も考慮する	→	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様	上・下水道の確保 ・地下水の利用	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	上・下水道の利用が滞った場合に衛生環境の悪化が懸念される	→	→	→	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様	—	—	—	—	重症化した各種感染症患者の病床確保	→
		課題・懸案事項	—	—	—	—	市内の避難所等から運ばれてくる各種感染症患者への対応	→
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様	運営体制・運営要領は「災害対策マニュアル」を参照	→	→	→	→	→
		課題・懸案事項	—	—	—	—	—	—

業務名		一般外来診療業務						
担当班		外来診療班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様				55名(診療部)	→	→
		課題・懸案事項				一般外来通常診療の再開	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様				平常時+ α 分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→
		課題・懸案事項				診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様				ライフラインの被害により外来診療に支障がない対応が必要	→	→
		課題・懸案事項				ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様				3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様						
		課題・懸案事項						

業務名		一般外来看護業務						
担当班		外来看護班						
フェーズ		フェーズ1 (超急性期)				フェーズ2 (急性期)	フェーズ3 (亜急性期)	
		1時間	3時間	24時間	72時間	4日～7日	8日～30日	
必要資源	人員(職員の数、スキル等)	必要数量・仕様				一般外来診療(日中) - 20名(看護部)	→	→
		課題・懸案事項				一般外来通常診療の再開	→	→
	物(物品、資器材等)	必要数量・仕様				平常時+ α 分の診療材料・看護ケア用品の必要数量	→	→
		課題・懸案事項				診療材料等の供給が滞っている状況での必要数量の確保が課題	→	→
	ライフライン	必要数量・仕様				ライフラインの被害により外来診療に支障がない対応が必要	→	→
		課題・懸案事項				ライフラインの被害によるサポートは事務方等で対応頂く	→	→
	場所(会議室等)	必要数量・仕様				3階 会議室 or 看護学生実習室	→	→
		課題・懸案事項						
	組織・システム(委員会や災害対策本部などの体制や業務運用ルール等)	必要数量・仕様				各部署から看護部長室に適時状況報告し指示を受ける。必要時、3階会議室にて師長会議を実施して最新の情報共有・問題の検討を行う(看護部)	→	→
		課題・懸案事項						